

# みおき

Mizuki Dayori

# 便り

特別地方公共団体  
神奈川県内広域水道企業団 広報誌

NO. 23

2016.8

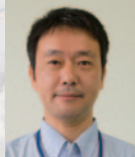
緊急特集  
災害に備えて

地震から  
水道を守れ!





# 地震から 水道を守れ!



お話してくれた人

横浜市水道局  
給水サービス部三ツ境水道事務所  
維持係長

西本 隆二さん

益城町で漏水確認を行う横浜市水道局の職員

熊本県を震源として4月に発生し、九州地方に大きな傷跡を残した熊本地震。今なお多くの人々が不便な生活を強いられています。多くの被害と教訓を残したこの震災は、あらためて水道をはじめとするライフラインの重要性を考えさせるものとなりました。

私たちの生活に1日として欠かせない水。災害への備えのために私たちはどうすればいいのでしょうか？震災後、支援のために派遣された横浜市水道局の西本隆二さんに、現地の状況などをお聞きしながら考えてみました。



参加してくれた人たち

横浜市立寺尾小学校  
5年1組 林 優花さん、4年2組 亀原 彩加さんと家族のみなさん



子どもたちの防災への  
関心は高い。話を聞く  
表情も真剣そのもの

## 《水道企業団ニュース》

### 第31回川と湖の魚フェア(内水面まつり)に出展

神奈川県内水面漁業協同組合連合会ほか、相模川の漁業関係者が主催する「第31回川と湖の魚フェア(内水面まつり)」が5月3、4日に開催され、企業団もブースを出展しました。

多くの家族連れでにぎわう中、企業団の出展ブースでは、水缶を配布したり、パネルを使った事業の説明を行い、企業団事業を多くの方々にPRすることができました。



### 今年も川の清掃活動に参加しました

企業団の重要な水源である酒匂川と相模川で、5月22日に「平成28年度クリーンさかわ」が、同じく29日には「県央相模川サミット」が行われました。

水道事業にとって大切な川と水を守るため、この清掃活動にボランティアとして酒匂川に9名、相模川に12名の企業団職員が参加しました。



## 企 業 団 N

### 中学生が職業体験

横浜市立原中学校の生徒3名が6月23日、企業団を訪れ、社家取水管理事務所、広域水質管理センター(海老名市)・綾瀬浄水場(綾瀬市)・水運用センター(横浜市)の各施設で職業体験を行いました。

実際に川の水が飲み水に変わっていく様子を目で学び取ってくれました。また、普段はあまり気にしなかった水道施設がとても重要なものであり、少ない人数でそれを支えていることにとても驚いていました。







## 熊本への支援はいつ行ったのですか？

**西本** 横浜市水道局は、最初の地震があった4月14日の3日後、4月17日に出発し、5月9日まで現地で支援活動を行いました。



## 何人くらい参加したのですか？

**西本** 横浜市水道局からは、第1次隊から4次隊までがそれぞれ1週間ずつ派遣され、全部で35人が参加しました。



## どこから要請があったのですか？

**西本** 日本水道協会という水道関係の団体から支援要請があり、全国の水道局が支援に向かいました。



## どんな仕事をしたのですか？

**西本** 1次隊は給水袋1万袋を届けるとともに、被害の大きかった益城町(ましきまち)の被害を調査し、復旧に向けた技術的なアドバイスを行いました。2次隊は熊本市での漏水の調査です。「音聴棒(おんちようぼう)」を使って漏水箇所を調べたり、車でパトロールしたりしました。私の参加した3次隊、そして4次隊は熊本市と益城町で、壊れてしまった水道管の修理を行いました。



## 水道はどんな状況でしたか？

**西本** 熊本市の水道は地下水を利用していますが、地震で濁ってしまい飲めなくなっていました。水道管の破損も激しく、漏水によって蛇口からほとんど水が出ない状態でした。給水車などからの給水はあったのですが、水を入れる容器が足りず困っている人が多かったですね。横浜市が届けた1万袋の給水袋がとても喜ばれました。



取材は企業団の三ツ境庁舎で行われた



リポーター

横浜市立寺尾小学校  
5年1組 林 優花さん  
4年2組 亀原 彩加さん



## 災害への備えでどんなことが必要ですか？

**西本** 水道に関して言えば、飲料水は1人1日3リットル、最低3日分で9リットル以上は備えてください。同時に生活用水を備える工夫や給水などを受けるための容器の備えも大切です。また日頃から、水道メーターの場所を確認しておくことも重要です。

熊本で水の大切さをあらためて感じました。万一横浜が災害に見舞われたときに慌てないように、今回の派遣の経験をしっかり生かしたいと思います。



音聴棒を使って漏水調査を体験。音の違いで漏水箇所がわかる(上)。企業団が備蓄している6リットル入りの給水袋。簡単に組み立てることができる(右)



**1** 現地での会議風景。横浜市以外にも関東地方からは、東京都、千葉県、神奈川県、川崎市、横須賀市、さいたま市、前橋市の水道局が職員を派遣した。



**2** 長さ1mほどの鉄でできた音聴棒を水道メーターに当て、漏水場所を探る。



**3** 被害の激しかった益城町からの要請で急ぎょ駆けつけた。写真はつぶれた家の圧力で動けなくなったキャンピングカー。



**4** 水道管の修理作業。益城町では、水道管が各所で寸断され、役所や避難所でもほとんど水道が使えない状態だった。

## OW ～安全・安心な水道用水の安定的な供給に向けて～

### 「みずきフェスタ2016夏」開催！

社家取水管理事務所(海老名市)で7月23日、特別開放イベント『みずきフェスタ2016夏』を開催しました。



今年から、パトロールカーの展示や川掃除のゲーム、さらに特設ステージで地元高校生のダンスパフォーマンスや飲食物の販売などを加え、よりパワーアップ。晴天にも恵まれ、多くの方にご来場いただきました。夏休みの宿題に使える「水の学習シート」の配布など、楽しく水道について学べるイベントになりました。

### 厚生労働省などに陳情を行いました

平成29年度の予算に関して8月2日、関係省庁へ陳情を行いました。



補助金制度の拡充や水源地域における関係機関の連携など、いずれも企業団にとって重要な事項です。今後とも、安全・安心な水道水を安定してお届けするために、重要な事項について積極的に陳情を行っていきます。

### JICA課題別研修へ協力しました

企業団では、毎年、JICA(国際協力機構)事業への協力を行っています。

今年度も、7月29日～8月5日にかけて行われた課題別研修に講師として8名の企業団職員が参加しました。受講者からは、少しでも多くの日本の高度な水道技術を学び取ろうと、熱心な質問がありました。





神奈川県内広域水道企業団(以下企業団)三ツ境庁舎に常設されている「災害対策室」を訪ね、災害に備えた企業団の取り組みについて聞きました。



お話ししてくれた人  
神奈川県内広域水道企業団  
技術部監理指導課  
前田 知紀 課長



## 企業団の災害への備えを教えてください

**前田** 企業団の災害への備えとは、例え災害がおきても、水道水を「つくること」と「送ること」ができるように備えることです。



## 具体的にはどんなことですか？

**前田** 以下の4つに取り組んでいます。

- ①**壊れない施設** 浄水場や送水管などの水道施設を、地震に負けないように強くしています。
- ②**停電に備える** 電気が止まっても各施設を動かせるよう、自家発電設備を設置しています。
- ③**必要なデータの確保** 水道水をつくるために必要なさまざまなデータを、無線通信を活用して守っています。
- ④**働く人のために** 設備が無事なだけでは水道水はつくれません。いざというときに働く職員のために食糧を揃えたり、災害発生を想定したさまざまな訓練を行っています。



今年度末に完成予定の耐震補強工事



## 事前にどんなことを知っているといいですか？

**前田** 例えば横浜市でいうと「お客さまサービスセンター」のような水道に関する相談を受け付けるところがありますので、水道が止まってしまった場合などに備えて連絡方法を知っておくといいですね。給水所の場所なども各水道局のホームページなどで普段から確認しておいてください。



## ほかの地域と協力することはありますか？

**前田** 災害が起こったときに、被害のない地域から互いに応援ができるよう、阪神水道企業団(兵庫県)や埼玉県企業局、大阪広域水道企業団との4者間で、また静岡県大井川広域水道企業団との2者間で、災害時における応援協定を結んで、合同訓練などを行っています。



企業団で行っている応急給水訓練

## 《子どもたちの感想》



地震に備えて何をすればいいのかわかりました。学校の友だちにも教えてあげたいと思います。



もし神奈川県で大きな地震があっても、今日学んだことを生かして、慌てないようにしたいです。

## 《お母さんたちの感想》

★ついおろそかになりがちな災害への備え。気を抜かず一日一日積み重ねていくことが大切なんですね。

★東日本大震災以降、防災には気を使ってきましたが、今回の熊本地震であらためてその必要性を痛感しました。



災害時に備え、さまざまな機器が設置された災害対策室





## 川崎市上下水道局

### 水道技能スペシャリストを 9名認定しました

川崎市上下水道局  
キャラクター  
ウォータン

川崎市上下水道局では、選考会において、水道管の配管や漏水修理について特に高い技能を有することを確認した職員を「水道技能スペシャリスト」に認定しています。事故や災害時において、最小限の漏水・断水で迅速に管路の復旧を行える能力の維持向上を目的としています。



選考会の様子

水道技能スペシャリストは市内一円において大規模漏水が発生した際に復旧活動を行うとともに、他都市で災害が発生した際には復旧応援に駆け付けます。また日常業務においては、漏水事故及び災害を想定した訓練や他都市との相互応援研修へ参加します。

これらの活動により、危機事象への対応能力の向上及び技術・技能の継承を図ります。




## 横須賀市上下水道局

### 好評です！出前授業

～水道の役割と実験お届けしています～

横須賀上下水道  
イメージキャラクター  
アクアン

横須賀市上下水道局では、市内小学4年生を対象に出前授業を行っています。

出前授業とは、職員が小学校でクイズなどを織り交ぜた業務の説明や、川の水をきれいにする実験を行い、子どもたちに水道の役割や仕組みについて学んでもらうものです。



出前授業の様子

小学校の総合的な学習

や社会科の授業と連携して行うことで、次世代を担う子どもたちに水循環の大切さや水環境保全の必要性など、日常生活に欠かせない水道に対する理解をより深めてもらうことを目的としています。

子どもたちは普段と違う授業と実験に興味津々。いつも「へー！」や「なるほど！」の声が聞こえてきます。




## 横浜市水道局

### 道志水源林100年

横浜市水道局キャラクター  
はまピョン

横浜市は、明治30(1897)年に道志川から取水を始め、大正5(1916)年に道志村内の山林を購入しました。それ以来100年にわたり、この山林を道志水源林として管理・保全しています。



「道の駅どうし」に設置された記念碑

今年は道志水源林100年を記念してさまざまな記念事業を行っています。7月26日(火)には道志村内で記念式典を開催し、道志村の皆さまへ感謝の気持ちを表すとともに、今後ますます道志村と横浜市の交流が深まることを願い、「道の駅どうし」にNHK大河ドラマ「平清盛」のタイトル題字などを揮毫したことで知られる書家、金澤翔子様の書を刻んだ記念碑を設置しました。この機会に、記念碑が設置された「道の駅どうし」をはじめ、道志村を訪れてみてはいかがでしょうか？




## 神奈川県企業庁

### 災害対策を紹介します！

### かながわ防災フェア 2016

県営水道キャラクター  
カッピー

今年もカッピーと「かながわ防災フェア」に出展して、県営水道の災害時の取り組みをご紹介します。

会場では、給水車に水道水を貯めて展示しますので、もしもの時の給水を体験してみませんか。



県営水道キャラクター  
カッピーも参加します

他にも、消防学校初任教育生の救助訓練の実演や、特殊な消防用車両の展示、放水・綱渡りの体験ができるちびっこ消防・レスキュー隊コーナーなど、大人からお子さままで楽しめる防災イベントが開催されます。ぜひ、ご参加ください。

開催日 平成28年9月18日(日)

開催時間 9:30～15:00

会場 神奈川県総合防災センター  
厚木市下津古久280

# みずきPLAZA

## ●表紙の言葉●



### 神奈川県内広域水道企業団 災害対策室

平成23年9月1日の防災訓練を契機に、横浜市旭区の本庁舎内に常設された。近い将来、東海地震や南関東沖地震が起こると予測される中、「たとえ何があっても水を供給する」という使命のもと、あらゆる可能性を検討・想定し、さまざまな角度から災害対策の強化を進めている。庁内LANや各種モニター、緊急ホットライン（直通電話）など、災害対策に必要な情報機器が備えられ、災害状況に応じてより多くの配備者を集め、「災害対策本部」が設置される。

庁内LANや各種モニター、緊急ホットライン（直通電話）など、災害対策に必要な情報機器が備えられ、災害状況に応じてより多くの配備者を集め、「災害対策本部」が設置される。

## 水あれこれトーク③

### コアジサシ



日本野鳥の会神奈川支部  
支部長

鈴木 茂也

白い体をひらりとさせてコアジサシが空中から真つ逆さまにダイビングする。水しぶきを上げて舞い上がったその嘴には小魚がくわえられていました。アジを刺すように捕らえることからアジサシ（鰺刺）の名前があり、全長が24cmと、この仲間では小さいのでコアジサシと名前がつきました。

コアジサシは4月になると南方から渡来して、相模川などの川や海にその姿を見せ始めます。徐々に集団を作り、広々とした砂地や砂礫地を営巣地に選びますが、時には500羽以上が同じ場所です。営巣します。巣は地上に小石などを集めた粗末なものです。卵の模様は小石にそっくり。侵入したカラスや人には親鳥が空中から集団で攻撃して守ります。集団が大きいほど雛が生き残る確率は高く、1960年代には相模川の河原にも大きな営巣地がありました。徐々に数が減り、現在は少数で渡来してはいますが、繁殖が難しくなっています。



コアジサシの飛翔

原因は営巣環境が悪くなったことです。巣となる河原の砂礫地は流れる変化によって減少しています。これまで川の氾濫などから市民生活を守るなど、人によって川の環境が変えられてきました。しかし近年では河川法が改正され、整備の目的に環境の維持と保全が加えられています。川の環境を改善して川本来の自然を取り戻すためには、「人が手を加えて現状よりも環境を良くする」といった発想の転換が必要だと感じています。



### 安定供給をよろしく

昨今首都圏の水不足のようなことがあまり神奈川では起こらないような気がします。安定供給のためにこれからもよろしくをお願いします。

S.O (平塚市)

### 水道施設の地震対策を知って安心

水道は災害時でも安定した供給が望まれるライフラインの一つです。みずき便りの前号を見て、水道施設の地震対策にしっかりと予算組がされていることがわかって安心しました。これからも取り組み事業の進捗状況などを便りに載せていただければと思います。

Y.S (海老名市)

### おいしくて、安全な水のために

昔から横浜の水は外国にも運ばれるほどおいしいと聞いていました。おいしい安全な水を届けるために設備の更新などに力を入れていること、また、老朽化対策、耐震化などにも力を入れていることをあらためて知ることができました。

K.H (横浜市神奈川区)

## 職員採用試験実施のお知らせ

生活に欠かせない「水」。  
あなたも「水道のプロ」として活躍してみませんか。

- 試験の区分：(I種)行政、土木、化学
- 受験資格：昭和61年4月2日～平成7年4月1日生の人
- 申込受付期間：9月30日(金)まで

詳細は企業団HPをご覧ください。

## プレゼント コーナー



「みずき便り」読者の中から、抽選で5名の方に企業団オリジナルの「やまなみ五湖のブレンド水」340ml缶1ケース(24本入)をプレゼントします。ご希望の方は、FAXまたはメールで、住所/氏名/電話番号/年齢/職業を明記の上、下記までお寄せください。その際、今号の内容へのご意見・ご感想も忘れずをお願いいたします。

応募締め切り：9月30日(金)必着 ※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます

応募先：〒231-8445 横浜市中区太田町2-23神奈川新聞社クロスメディア営業局内「やまなみ五湖のブレンド水プレゼント」係 FAX.045-227-0765 kokoku@kanagawa-np.co.jp

●プレゼントに関するお問い合わせは ☎045-227-0804 までお願いいたします。



### 編集後記

今年は熊本で大きな地震があり、防災について深く考えることとなった方も多いかと思います。今回のみずき便りでは、「災害に備えて」と題し水道と災害への備えを特集しました。9月1日は防災の日です。今回の特集が日々の備えの助けとなれば幸いです。

災害は起こらないことが一番です。しかし、たとえ災害が起こったとしても継続して安定的に皆さまへ水をお送りできるよう、職員一同努力を続けてまいります。

次号からは、「水道の仕組みを知ろう」シリーズの続編をお送りいたします。どうぞお楽しみに。

(総務・広報グループ)

### 神奈川県内広域水道企業団とは

三保ダムと宮ヶ瀬ダムに貯めた水を浄水処理し、構成団体を通じて、利用者の皆様に、安全で安心な水道水を供給している「特別地方公共団体」です。

